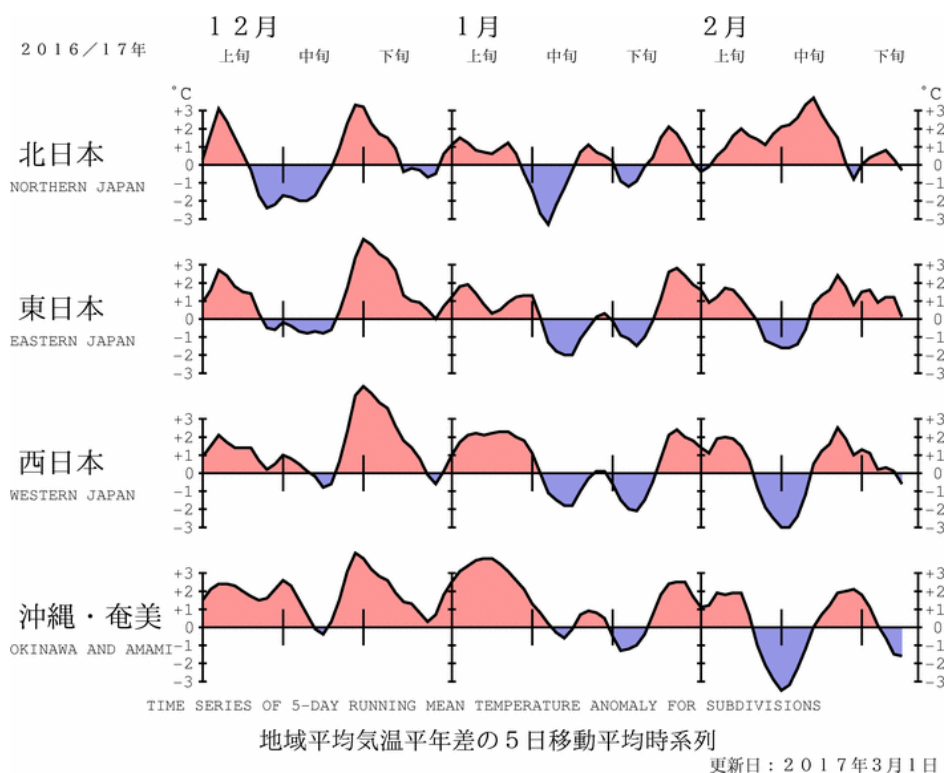


2016/2017年冬のまとめ

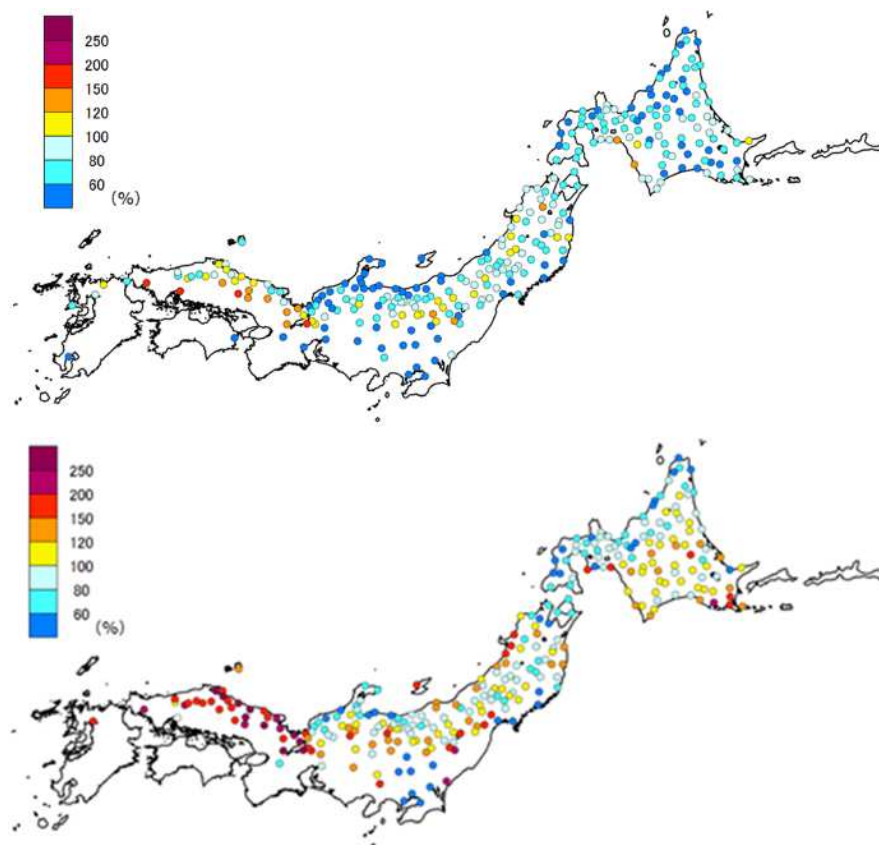
平成29年3月2日
気象庁気候情報課

【まとめ】2016/2017年冬の天候の特徴

- 全国的に暖冬で、特に沖縄地方の気温は記録的に高かったが、強い寒気が南下して低温となる時期もあった。
- 降雪量は北日本ではかなり少なく、東日本では少なかった。一方、西日本では降雪量は平年並だったが、大雪となる時期もあった。



地域平均気温平年差の時系列



2017年冬の降雪量と最深積雪
(上)降雪量平年比、(下)最深積雪平年比

【まとめ】2016/2017年冬の大気の流れの特徴

（シベリア高気圧が弱かった要因）

- 北大西洋で高周波擾乱の活動が活発だった影響もあり、ヨーロッパ北部で気圧の尾根（偏西風が北に蛇行）、ロシア西部～西シベリアでは気圧の谷（偏西風が南に蛇行）となった。西シベリアでは、偏西風の南への蛇行に対応して低気圧偏差となり、中央シベリアでは南西からの下層暖気移流が卓越して寒気が弱く、平年と比べてシベリア高気圧が発達しなかった。このため、日本付近は寒気の影響を受けにくく平年より気温が高かった。

（沖縄地方の高温の要因）

- 東南アジア付近では、高い海面水温に対応して対流活動が活発な状態が持続し、その応答として下層低気圧性循環偏差が維持された。この東南アジアの下層低気圧性循環偏差に伴って北からの寒気の影響を受けにくかった沖縄では12月、1月に記録的高温となった。

（地球温暖化）

- 全国的に平年より気温が高かった背景として、長期的な地球温暖化の傾向がある。

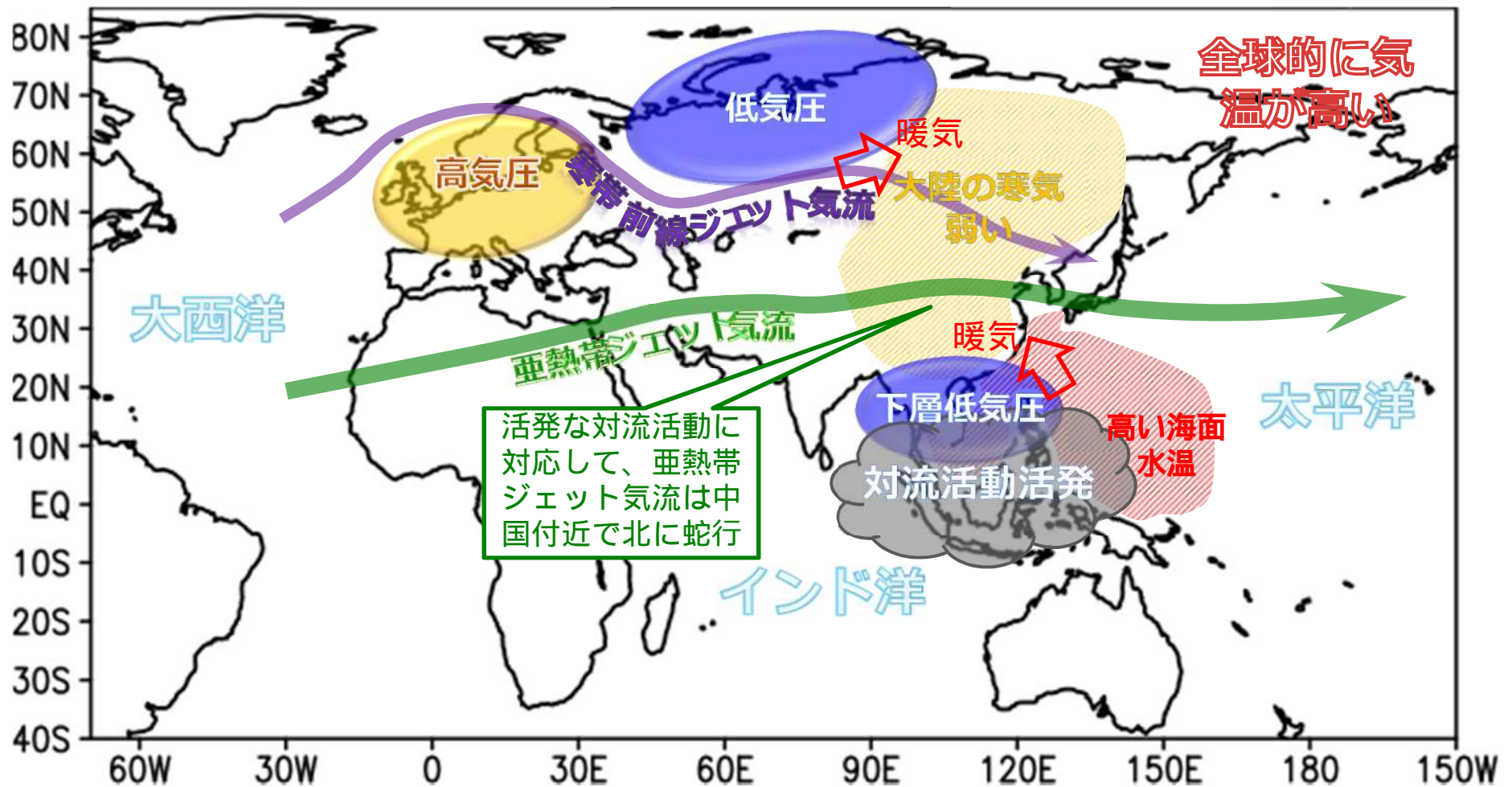
（西日本の大雪の背景）

- 1月中旬、2月上旬頃は、ベーリング海付近で発生したブロッキング高気圧が西進して東シベリアに到達した。ブロッキング高気圧の南側では気圧の谷が深まって冬型の気圧配置が明瞭になり、寒気が南下したため、西日本を中心に大雪となった。このブロッキング高気圧の形成には、東南アジア付近の活発な対流活動が影響した可能性がある。

（海氷の影響）

- 北極海の海氷は秋から冬にかけて1979年以降で最も少ない状態で経過した。11月にシベリア～北極海で明瞭な気圧の尾根となったことには、海氷が少ないことが影響した可能性がある。冬については、ヨーロッパから伝わった偏西風の蛇行の影響が卓越して海氷の影響は不明瞭だった。

2016/2017年冬の大気の流れの特徴



西日本で大雪となった時期（1月中旬、2月上旬頃）の大気の流れの特徴

